

キャリア教育の充実をめざした NIE の実践

国富町立本庄中学校 教諭 山本 健太

1 はじめに

本校は、令和3年度より NIE 実践指定校(全国大会授業実践校枠)となっている。2 年目である本年度は、「キャリア教育の充実」をテーマにして取り組んだ。また国富町は、令和4年度より宮崎日日新聞社と提携し、「国富町宮日新聞の日」をもうけ、全小中学校で NIE 教育の推進に努めている。今回は、令和 4 年 8 月 5 日(金)に行われた、NIE 全国大会宮崎大会の公開授業を中心に活動を報告する。

2 本年度の取り組み

(1) 学校としての取り組み

① いつでも手に取って新聞を読める環境の整備

- ・ 毎日4部ずつ届く新聞を各学年の廊下に新聞コーナーを設置し、生徒が気軽に新聞を読むことができるように工夫した。また、図書室にも新聞コーナーを設けたり、朝の読書の時間 20 分間(1・2 年生のみ)には、本だけではなく、新聞を読むことを推奨したりすることで、読解力の向上を図った。

② 「国富町宮日新聞の日」の活動

- ・ 学期に1回(全3回)、全生徒に新聞を配付し、学年ごとに NIE の実践を行った。1、2回目は各学年の裁量で実施した。3回目は町内全小中学校で「新聞スクラップコンクール」を実施し、町から優秀作品を表彰していただいた。学年ごとに実態に即した工夫が見られ、読解力や表現力の向上のみならず、将来の生き方や進路学習(キャリア学習)にもつながった活動となった。1、2回目の活動内容は以下の通りである。

	第1回(7月実施)	第2回(12月実施)
1 年	学活の 1 単位時間を使ってコラム「くろしお」の視写に取り組んだ。視写の効果として、字が上手になること、書く速度が上がること(文章の表現方法を覚える→ノートをとる速度が上がる→学力が上がる)、表記ルールを覚えること、文章の理解力が向上すること、暗唱や記憶に役立つことを説明した上で取り組ませた。今までの自分の文章表現の間違いに気付いたり、新聞のおもしろさに気付いたりする生徒の姿が見られた。	学活の時間に「くろしお」を読み、視写し、記事の感想を書いた。1学期は視写のみだったが、今回は感想を書くことで、新聞をじっくり読むよさを体感させることができた。早く終わった生徒は、他の記事を選んで読むこともできた。今後、自分の興味のある内容の記事を探して読むという習慣が身に付くことにつなげたい。
2 年	道徳の 1 単位時間を使い、6月28日付の新聞の中から「心に響いた記事を探す活動」を行った。学習の流れは、次の①～③である。(①新聞を読み、心に響いた記事を探す。→②記事の紹介と感想をタブレット PC の発表ノートにて提出する。→③クラス全体の場で紹介する。)同じ記事であっても、様々な視点から考えた生徒の意見にふれることで、新	宮日新聞の日として、宮崎日日新聞社の方が来校され、出前授業が行われた。授業では新聞の構成や読み方、新聞記者の仕事の内容等について話をされた。また新聞を構成する上での5W1Hの大切さについても話をされた。生徒は、実際の新聞を使って、リード文を考えていたが、見出しをつけることは難しい様子であった。新聞の果たす役割を知り、新聞を読むことで読解力

	たな見方や考え方に気付くことができました。	が付き、自分たちの進路にも役立てることが分かった。
3年	新聞を持ち帰り、読んだ中から記事の一つを選び、その記事の要約と感想及び伝えたいことをワークシートにまとめた。そのワークシートは参観日に保護者に閲覧してもらい、更に1分間スピーチとして発表する機会を設けた。スピーチを通して自分の考えを伝える場やほかの人の意見を聞きながら、自分の考えを深める場にしたいと考えている。	学活の時間に新聞を読み、気になった記事を選択させ、その記事の内容についてタブレットを用いて情報を収集させた。記事と調べた内容から感想および意見を考えさせ、その内容は1分間スピーチで発表させた。新聞をじっくり読むことで様々な記事に接することができ、他の人の意見を聞くことで考えをより深めることができた。

③ 「14歳の君へ」(宮日新聞)への感想文の投稿

- ・毎月10名程度の投稿を希望する生徒を募集し、「14歳の君へ」(宮日新聞)への感想文の投稿を行った。はじめは、投稿に消極的な生徒もいたが、新聞記事に自分の書いた文章や思い、考えたことなどが掲載されることで、投稿に挑戦する生徒が増えた。また、掲載された記事を職員室前や各学年の廊下に掲示し、他の生徒に紹介することで、次回の投稿への動機付けとなり、新聞を手に取り読む機会の増加につながっていた。学校行事や各種テスト、入試等による生徒への負担を考慮し、7月までは3年生を中心に投稿者の募集を行い、9月以降は1・2年生を中心に募集した。

(2) 「令和4年度 NIE 全国大会宮崎大会」に向けての取組

① 学習の流れ

- ・第2学年を対象に、社会科と総合的な学習の時間を使って、地域人材を活用しながら「国富町の将来を考える学習」を行った。学習の流れは以下の4ステップである。

ステップ1…新聞記事をヒントに KDP(国富デザインプラン)新聞を作成する調査学習 【社会】

ステップ2…KDP 新聞を個人で発表し、講師と意見を交流する探究学習 【総合】

ステップ3…KDP 新聞をグループでまとめ、よりよい壁新聞を作成する探究学習 【総合】

ステップ4…KDP 新聞の発表を聞き、講師や生徒と意見を交流する課題解決学習 【社会】



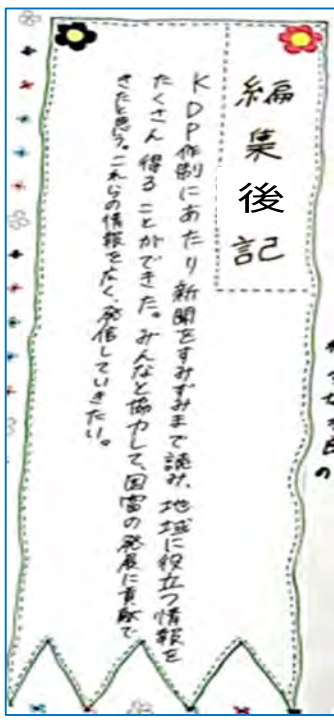
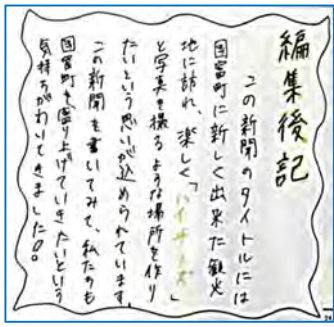
【公開授業前に生徒の様子を紹介した宮日新聞(令和4年8月4日付)の記事】

② 大会当日の公開授業について

・公開授業は、上記のステップ4にあたる社会科の授業を実施した。まず、「国富町は、これからどのように発展していけばよいのだろうか」を課題として、3グループで作成した具体的なプランの発表を聞く。次に、20年後の国富町のキャッチコピーを考え、意見を交換する。最後にこれまでかかわってくださった講師から講評とアドバイスをいただいた。追究してきた具体的なプランをまとめることで見えてくる、心に届く言葉（キャッチコピー）を考える学習を通して、生徒は「具体から抽象(より高次の概念)をつかむ力」や「たくさんの情報を要約する力」などを身に付けていくことができると考え、授業を実施した。学習指導案の目標と学習過程は以下の通り。

(1) 目標	
KDP 新聞の発表と講師のアドバイスをもとに、お互いに意見を交流し、考察する活動を通して、国富町の将来のあり方を考える。【思考・判断・表現】	
(2) 学習過程	
主な学習活動	留意点等
1 これまでの活動を振り返る。 3分	○ プレゼンで活動を振り返る。
2 本時の学習課題を確認する。 1分	○ 学習課題を掲示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 国富町は、これからどのように発展していけばよいのだろうか。 </div>	
3 グループごとに KDP 新聞を発表する。 10分 A (人づくりグループ) 移住、働く、学ぶ B (ものづくりグループ) 観光、食べる、遊ぶ C (町づくりグループ) 環境、防災、産業、福祉 発表…1グループ3分	○ 発表をしっかりと聞かせる。 ○ タイマーで時間を図る。
4 個人で、20年後の国富町のキャッチコピーを20字程度で考える。 6分	○ キャッチコピーとは何かを説明する。 ○ キャッチコピーは、KDP新聞を地域へ発信する際の見出しになることを伝え、地域へ貢献する気持ちを高める。
5 個人で考えたキャッチコピーを、講師とともにグループ(1グループ6人)で協議し、1つにまとめ、発表する。 15分	○ 講師には、生徒の意見を肯定的に聞いていただく。 ○ 交流しやすいようにホワイトボードを活用して、各グループの考えを集約する。
6 グループで出されたキャッチコピーを全体で交流し、クラスで1つにまとめる。 7分	○ 「心に届く言葉」という視点をもたせ、一般化させる。 ○ 他のクラスで出た意見も参考にさせる。
7 単元のまとめとして、講師の方から講評をいただく。 8分	○ ふるさとを愛し、ふるさとに関わり、誰かを笑顔(幸せ)にする人に成長してほしいという願いを込めて講評をしていただく。

3 生徒の作成した KDP 新聞(壁新聞)の一部



4 成果と課題

【成果】

- 全職員で NIE の活動に取り組んだことで、読解力や表現力の育成につながることや生徒のキャリア教育に有用であることなど、新聞を活用することのメリットを再確認することができた。
- 2年生の生徒が作成した KDP 新聞を使って、地域作りのアイデアを町内へ発信したことで、生徒に達成感を味わわせることができた。また、新聞を読んだり、作成したりすることが、自分の進路選択や将来の生き方につながっていることを感じさせることができた。

【課題】

- 学校における NIE の活動に取り組む時間の確保や、生徒の発達段階や実態に応じた活動になるようにする工夫など、教師側の準備や確認が必要である。
- 学校の教育活動の中で、持続可能な NIE 活動にしていくためには、無理なく活動していくことが大切である。